

公表

第2回 事業所における自己評価総括表

○事業所名	HIROキッズぐろーあっぷ（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和8年2月5日		～	令和10年3月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	6名
○従業者評価実施期間	令和8年2月6日		～	令和8年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月28日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスでは学校の宿題に取り組み、そのあとに仲良しタイム（小集団活動）を行います。運動の発達の狙いが入ったプログラムや、SSTで気持ちや考え方を一緒に考える時間、帰りの会の時の本の読み聞かせは、とても有意義な時間です。家庭的な雰囲気なので、利用者（子どもさん）はリラックスできる居場所として過ごしています。	利用者（子どもさん）がリラックスできるように、関わっています。ルールはきちんと伝えて、小集団の中で活動できるように導いています。叩くことや、利用者（子どもさん）本人や周りの利用者（子どもさん）が危なくなる、やってはいけないことは指導しています。	ホワイトボードやパネルの視覚情報があり、かつそれに注目することを利用者（子どもさん）に伝えていきます。少しずつ浸透して、利用者（子どもさん）も流れをつかんでいます。その中に、家庭的なあたたかい雰囲気を大切にしていきます。
2	楽しく過ごすことができる場所です。	利用者（子どもさん）が楽しめるように、外遊び、工作を勧めています。外遊びは園庭や近くの久泉公園を活用しています。また、利用者（子どもさん）がやりたいリクエストにできる範囲で応えています。	引き続き、利用者（子どもさん）が楽しめることを活動内容に組み込んでいきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等デイサービス、障がい福祉サービスも働く人の募集は難しくなっていて、ぐろーあっぷでも苦戦しています。	ぐろーあっぷ放課後等デイサービスでは、児童発達支援のNCプログラムの視覚構造化、療育が緩やかに組み込まれています。仲良しタイムの教材の準備、プログラムの立案は難しさも大変さもあります。	業務の大変さの中に、利用者（子どもさん）がプログラムの実施によって言葉が増えて行ったり、行動が落ち着いてきたりするのを見ると、大きなやりがいを感じます。もちろん、保護者様も喜んで下さいます。職員が少ない中、保育士2人と作業療法士が奮闘しています。お陰様で素晴らしい支援が展開されています。このことを知ってもらってやる気ある職員を増やし、充実させていきたいと思えます。ハローワーク、関係者のご縁でぐろーあっぷと一緒に働くスタッフを見つけていきます。業務の流れ、方向性が徐々に確立しつつあります。
2	HIROキッズとの連携を強化していきます。	HIROキッズは開所して令和8年2月で丸10年になりました。3月から11年目に入ります。利用者（子どもさん）が楽しく過ごす場所として皆様からご理解をいただいています。ぐろーあっぷでは視覚構造化、支援の方向性をスタッフで共有することを大切にして、HIROキッズと連携していきます。	日頃の業務は多忙ですが、ミーティングの時間を作って、スタッフ間のコミュニケーション作りに努めます。